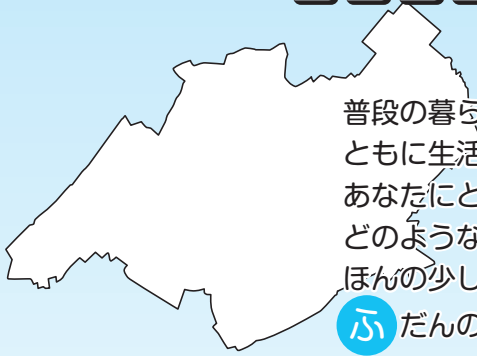


地域とつながる

シリーズ①



普通の暮らしの中で、さまざまな人とともに生活しています。
あなたにとって“ふくしまち”とは、どのようなまちですか。
ほんの少しの想いや行動が、
ふだんのくらしのしあわせをつくれます。
地域とつながるヒントとなりますように。

ふくしまち

社協だより

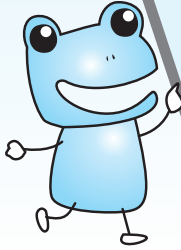
No.129

H28.7.1

ふれあいネットワーク

社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会

参加してみよう！ボランティア活動



彩の国ボランティア体験プログラムが今年もはじまります！

ボランティア活動をはじめるとは、誰でも勇気がいるものです。特別な知識や技術を身につけていなくても、今持っている趣味や仕事、好きなことを活かせる活動があると思います。

これまで、ボランティア活動に参加したことがない方も、はじめの一步が踏み出せなかった方も、この機会にボランティア活動を体験してみませんか。

市内で活動しているボランティア団体や、社会福祉施設でのプログラムを用意しています。体験プログラムの詳しい内容は、プログラム一覧表をご覧ください。



保育体験

プログラム一覧表配布場所

社会福祉協議会（市庁舎6階）
市民活動推進センター
市民センター（6か所）
その他、公共施設など
市内の児童生徒には、各小中学校から配布していただく予定です。

申込受付期間

7月19日(火)から7月22日(金)まで
午前9時～午後5時

申込受付場所

社会福祉協議会事務局（市庁舎6階）



里山整備体験

社会福祉協議会のホームページをご覧ください。

社会福祉協議会の業務内容やボランティア・市民活動の情報など掲載しています。 で

この「社協だより」は、共同募金配分金により作成しています。

社協だよりは、目の不自由な障がい者の方々に、点字版・デージー版を発行しております。
ご希望の方は、社会福祉協議会までご連絡ください。
（協力：鶴ヶ島市点字サークル「アイ」、鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」、デージー鶴ヶ島）

平成28年熊本地震に伴う支援活動

地震によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

現在も、仮設住宅の設置等が追いつかず避難所での生活をしている方や、慣れない環境の変化に心身ともに辛い状況にある方など、厳しい状況にあります。共同募金会では、被災された方々の支援を目的に、義援金の募集を実施しています。詳細は、8ページをご覧ください。

この2ヶ月で現地へ支援に入った職員や、ボランティアで熊本市災害ボランティアセンターに参加した職員の話を紹介します。



障がいのある方への支援を通じて



4月14日と16日に熊本県を中心として発生した大きな地震（マグニチュード7.3）は、熊本市、益城町、西原村、南阿蘇村などに甚大な被害を発生いたしました。（参考：4月17日時点最大値避難所数855箇所、避難者183,882名）

自治体も被災し、通常の市民サービスを提供できる状態ではなく、福祉サービスの提供機能も同様でありました。中でも、障がいのある方への支援は東日本大震災の時も遅れがちで、一般市民との大きなタイムラグを生じました。今回はその経験をもとにいち早く障がいのある方の生活再建を支援するため、4月20日より熊本県の熊本市と益城町を中心に、相談支援専門員による戸別訪問に参加してきました。対象は障がいのある方で避難所に入れなかった可能性の高い方への訪問です。この災害初動時の活動が、長期的で継続的な支援活動への土台を作り出すことになることを願っています。

自治体も被災し、通常の市民サービスを提供できる状態ではなく、福祉サービスの提供機能も同様でありました。中でも、障がいのある方への支援は東日本大震災の時も遅れがちで、一般市民との大きなタイムラグを生じました。今回はその経験をもとにいち早く障がいのある方の生活再建を支援するため、4月20日より熊本県の熊本市と益城町を中心に、相談支援専門員による戸別訪問に参加してきました。対象は障がいのある方で避難所に入れなかった可能性の高い方への訪問です。この災害初動時の活動が、長期的で継続的な支援活動への土台を作り出すことになることを願っています。



ボランティアは、まだまだ必要だと痛感した2日間

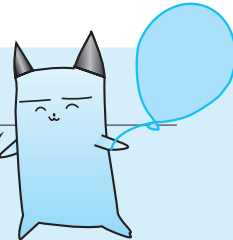
熊本市災害ボランティアセンター長の言葉「ボランティアの募集人数に対して数が上回っているからといって、ボランティアが足りているとは思わないでください。」

私達が、熊本での2日間で最も印象に残った言葉です。被災地には、SOSの発信の仕方がわからない方、埋もれてしまったニーズを抱えている方がまだまだいらっしゃいます。また、天候等の理由で作業ができなかったり、住民からのニーズが少ない日もあるそうです。「ボランティアは足りている、熊本はもう大丈夫」そう思わずに私たちが目を見たこと、聞いたことを周囲に伝え、継続的な支援を行っていく必要があると痛感した2日間でした。



藤小学校児童の取り組み

今回の取り組みのきっかけはなんだったメル？



4月末ごろに、ある児童の自主学習「熊本地震の被災地に何かできることはないか」から、全体の活動につながりました。6学年の総合的な学習の時間を使い、熊本地震への支援について調べ学習等を行い、自分たちに今できることを考えました。募金活動の実施が決まってから、2～3日の間で呼びかけるための準備をし、全校集会で呼びかけ等を行いました。児童の自発的な行動に、先生方も嬉しかったそうです。



街頭募金の取り組み

4月21日から4日間、駅・店舗等にて街頭募金を実施しました。

皆様の善意に重ねて感謝申し上げます。



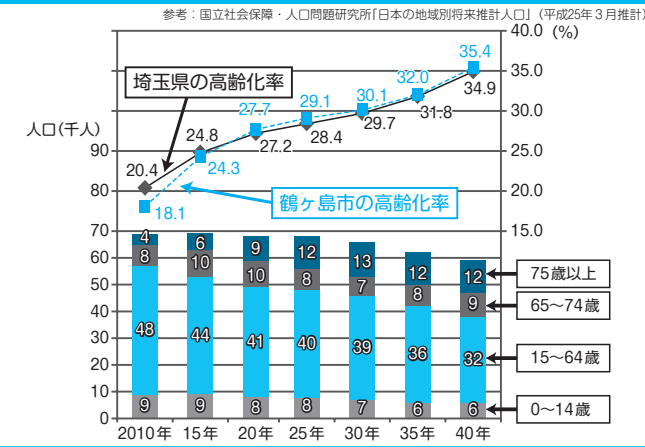
お預かりした義援金につきましては、日本赤十字社埼玉県支部と埼玉県共同募金会を經由し、被災地の支援に充てさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

協力団体：鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会、鶴ヶ島市赤十字奉仕団、平成会（鶴ヶ島市民生委員・児童委員OB会）、鶴ヶ島市社会福祉協議会理事・評議員

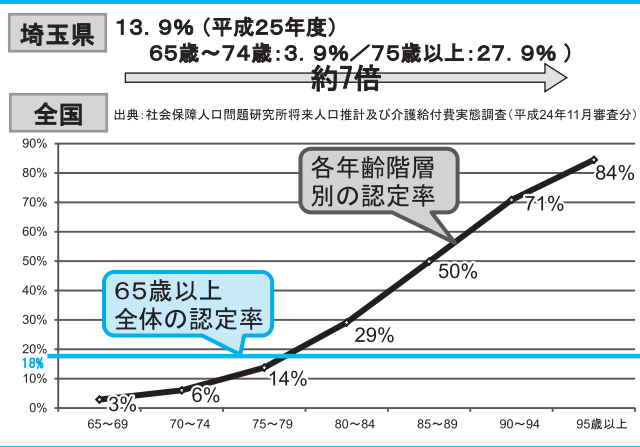
鶴ヶ島で暮らしと地域をつくる市民へ 生活支援コーディネーターが応援します!!

鶴ヶ島市の将来人口は、64歳以下の人口が減少し、65歳以上の人口が増加する推計が出ています。(図1) また、75歳以上の要介護(要支援)の認定率は、65歳から74歳までの約7倍になっています。(図2)

鶴ヶ島市の将来人口・高齢化率の見通し(図1)



年齢別にみた要介護(要支援)認定率(図2)



**制度による
サービスだけでは
解決できない問題も!**

要介護状態になったとき、介護保険制度をはじめとするさまざまな制度によりサービスを利用することができます。

しかし、制度によるサービスでは対応できなかったり、解決が難しい問題もあります。友人や地域の人と交流をもち、自分らしい暮らしを続けるために、助け合い活動が大きな役割を果たします!

**生活支援
コーディネーターが
配置されました!**

介護保険制度の改正に伴い「地域包括ケアシステム」(自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる仕組み)の体制整備のため、鶴ヶ島市では生活支援体制推進協議会を設置し、社会福祉協議会に生活支援コーディネーターが配置されました。

自分たちの思いを実現できる集いの場や居場所を作り、人と人のつながりによって地域生活を支え合うことを目指します。(図3)

医療や介護、地域住民が協力して、地域包括ケアシステムをつくります!(図3)

